

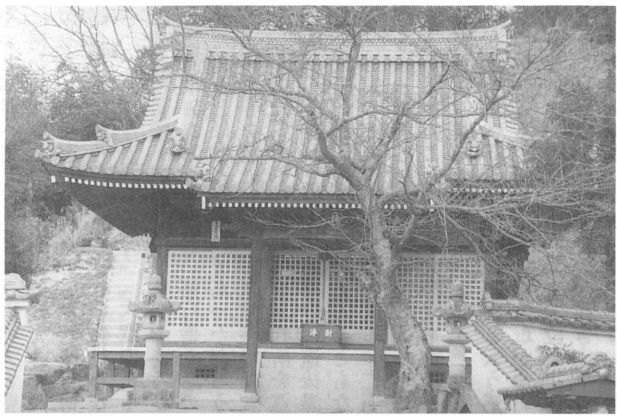


# 新年を迎えて

住職 若松隆英



明けましてお目出とうございます。皆様の良いお年をお迎えの事と存じます。昨年、本堂の修復が四月に終わり、立派に周囲に映える建物となりました。これも檀信徒の方々のご協力のたまもので御座います。厚く感謝申し上げます。本堂は裏が一増築され、お位牌、お骨が安置



新本堂

できる様になりました。又本尊薬師如来の台座が傷んでいたのも、三百万円かけて修理いたしました。今年は五ヶ年計画最後の年で、残った倉・物置の建て替えという事になるのですが、住職として前からは客殿の東側に広がる庫裡です。建物は古く、東に傾き、井戸水、割り木を利用していた頃のもので、利用が極めて悪い状態です。朝日寺の建物の全体的な配置を考えた上で、この機会に、倉・物置に合わせて、庫裡を建てなおし、檀家の方々にとって有難い、利用しやすい寺にしたいと思っております。総代会にもはかり了承を得ておりますが、こういう時節に、檀家の方々にはこれ以上の出費を強いる事は忍びがたく、住職の方でなんとかめどをつけたく存じております。世の中も変わり、自宅以外で葬式・法事を営む家も増えてきました。朝日寺で葬式が会食が都合なく出来る様にしたいと思っております。

目を社会に転じます。世の中不況色一色でございます。大きな銀行や証券会社がつぶれ不安感がみなぎっています。高令化・少子化という構造的な問題をかかえた中で、バブルの処理をしながら、世界に互していく為には避けて通れない道とも思いますが、まだまだ厳しい日々が続きます。こういう時こそ、努力・精進を重ねて自分をみがき、自分自身に自信を持つと共に、信頼の輪を拡げていく事が肝要です。それが明日の飛躍につながります。

お大師さまのお言葉に、「良工は先ずその刀を利(と)くし、能書は必ず好筆を用(もち)う。」というのがあります。つまり、十分の用意をしなければ、良い結果は得られるものではない。と言う事です。

今年も虎年、勇ましいおたけびが聞ける様願ひ申し上げます。

英会 松代 隆英  
発行 若松 隆英  
印刷 奥山 印刷



# 年頭に あたつて

総代長 島岡 篤

明けましてお目出とうございます。謹んで新年のご挨拶を申し上げます。平素は何かとご協力をいただきましてありがとうございます。厚くお礼申し上げます。

昨年からの工事を行って完了した本堂及位牌堂の工事も四月四日完成いたしました。皆さんもご承知の方が多いと思いますが、屋根も一尺程広くなり、本堂も裏が一増、表も一増前へ出し、よい戸も新しくなり、本堂の中が広くなりました。外観も立派になりました。八十八ヶ所のお砂踏の施設も元通り復旧いたしました。ありがとうございます。

五月十七日の一日巡りは曹源寺から半田山植物園方面を巡りましたが、一五名と言ふ大勢の参加者で、バス三台の賑かな一日旅行でした。

十月七・八・九日の第三回四国巡りも四十名の参加者で、天候もよく愛媛・香川と二十八ヶ寺を巡り無事終了致しました。平成十年度におきましても、五月の一日巡り、十月の第四回四国巡りと考えております。尚、今年度は朝日寺の工事計画は最終年度でございます。老朽建物の改修が残っておりますが、住職さんが庫裡の修復を考えておりますので、総代会とよく相談しながら整備していきたいと思っております。何分にも古い寺です。色々問題が出てまいります。工事につきましても設計事務所、住職、総代会と連絡しながら、一層努力しなければと考えております。どうぞ今後共にご協力賜りますようお願い申し上げます。

最後になりましたが、皆様のご健康とご多幸を祈念いたしましてご挨拶いたします。

# 御挨拶

密教婦人会々々  
胤草 小夜子

新年明けましてお目出度う御座ります。平成十年の新春を御家族お揃いで迎える事で御座居ましょう。日頃は密教婦人会に多大の御協力、御支援を頂き誠に有り難うございます。

私も会長と云う大役をお受けして早四年の月日が立ってしまいました。此の間別に事故もなく朝日寺の事業が無難に取り行われました事は皆様の御協力のたまものと唯々感謝して居ります。

五月八日の花祭りは二年続きの小雨模様のお天気の中での行事となりましたが、婦人部の役員さんの方々は早朝より色々の準備をして下さり、又澤山のお花を持ちよられ、又個人の方より大変澤山のお花を頂き、本当に有り難う御座居りました。紙上をかりましてお礼を述べさせていただきます。毎年の行事ですが澤山のお参り、そして子供を頂き有り難う御座居りました。又毎年恒例の保育園児の方も御招待しお参りして頂き、小さな手で花を添えて甘茶をかけ、子供ながらにお祈りした事でしょう。数日立ちままして園長先生からお礼の手紙がよせられ「日頃家庭でも手を合やすことこの少い此の頃園児たちに手をとって新しい体験が出来た事の感謝の気持ち一杯です」と云うお礼のお手紙を頂き胸を打つものがありました。考えて見ると今日核家族になり佛壇のない家庭が多く、日頃手を合やす事はないだろうと胸を痛めるものがありました。

修復されていた本堂も立派になり花祭りに御詠歌の方々の御協力をえてお砂ふみも行われ、客殿本堂共に立派な偉容を誇って居ります。本当に有り難い気持ち一杯でございます。これから先又何百年も朽ちる事なく続いて行く事でございます。

それからこれは御詠歌の事でございませうが、今年も恒例の中国五県のプロック大会が十一月十日、十一日の二日間広島県の浦の浦シーサイドホテルで行われ朝日寺からも十八名の方が参加致しました。毎年回を重ねる毎に皆さん大変上手になられたと驚かばかりです。私達も奥様、教師の方々の御教示を受け一生懸命練習いたしました。練習の後は皆さんなごやかにほけいな様に健康に過すために雑談にふけり時には大声で笑い大変楽しく和の心で習って居ります。二週間に一度ですが、此の日のくるのを楽しんで居られます。

# 御詠歌だより

尻海

小川 良子

合掌

皆様明けましておめでとうございませう。新年を迎え、襟を正してふりかえりまして、十七年前、朝日寺様の御開扉法會に当り、六十の手習とばかりに、東寿院津守先生の御指導はじめて鈴鉦を手に持りました。

当時はお仲間も多く、皆さんはじめてのことで熱心に一生懸命に勉強しました。その内に御詠歌とは佛を讃える讃佛歌で、奥の深い進む程にむつかしいこともわかりました。でも私達は高野山金剛講の講員であり、詠歌道の行者である自覚と、お唱えする御詠歌は、身口意、三密の修業であるとの流祖様の教えも、おぼろげながら感じるようになりました。そして一昨年には、千手山支部をはなれ、御住職を支部長に迎えて朝日寺支部を発足し、一週り成長致しました。一時は講員さんが年を取り、だんだんに人数がすくなくなるのを、大変に心配しましたが住職の御機嫌を中心に、若い方が増えて大変若くなり、仲良く、楽しく、懸命にお稽古に取組んでおります。

正月のお砂踏み、五月のお花祭り、七月のよみあげ供養、お盆の水祭りの御詠歌奉納と一年間の行事もほぼ定まりました。又高野山での弘法大師一一五〇年忌、眞然大徳お遠忌、嵯峨天皇一一五〇年忌、

# 四国霊場巡りに参加して

高助

山本 喜世子

合掌

お天気は上々、絶好のお遍路日和。朝日寺を出発し一路愛媛へと向う。総勢三十八名元氣一杯でバスの中は和気藹々。交通安全と、二泊三日の巡拝の無事を祈って、般若心経一巻を住職の先達で唱和する。気持ちの引き締まる思いである。瀬戸大橋まで一時間足らず、行き交う船の多いこと。白い航跡もくつきりと美しい。四国へ入ると、もう船刈りの終わった田が目につく。高速道の出来たお蔭で、今回最初の札所四十五番岩屋寺(十時過ぎには着いた)。岩屋寺橋を渡り、こゝから急な坂道が私達を待っている。呼吸を整え、無理をしない様に自分に言い聞かせ、一步一步踏縮めて坂を登る。山門を入り樹木の生い茂った中を行く。岩山